

■研究推進委員会 活動計画書

提出日：2022年11月23日

名 称	日本庭園の「こころ」と「わざ」に関する研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：栗野 隆（東京農業大学） 連絡先 e-mail アドレス：t3awano@nodai.ac.jp
幹 事	氏名（所属）：張 平星（東京農業大学） 連絡先 e-mail アドレス：hc207185@nodai.ac.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 寺石隆一（日本造園組合連合会） 井上花子（日本造園組合連合会） 調整中（日本造園建設業協会） 調整中（日本造園建設業協会） 高橋康夫（日本庭園協会） 小沼康子（日本庭園協会） 井上勝裕（京都府造園協同組合） 小林大祐（京都府造園協同組合） 吉村龍二（環境事業計画研究所） 加藤友規（京都芸術大学・植彌加藤造園） 井原 縁（奈良県立大学） 福井 亘（京都府立大学） 水内佑輔（東京大学演習林） 小池辰典（北海道大学）
目 的	<p>「日本庭園」は自然の一部を生活に取り込んだ住まいの空間として、信仰と結びついた神秘の空間として、もてなしの心を織り込んだ愉悦の空間として、時の当主の思いと庭匠の技術によって多様な日本庭園が創造され、日本人の歴史とともに歩んできた。</p> <p>ただし、近年の造園分野では、日本庭園の調査研究はさほど大きな盛り上がりを見せていないのも実情である。そこで 2020 年度から日本庭園の伝承造園技術、およびその人材の育成方法と技術の伝承方法に関するミニフォーラムを継続的に開催するとともに、日本庭園の「こころ」と「わざ」に関する研究推進委員会にて日本庭園の築造、育成、維持に関する伝承造園技術の解明を、主として庭園関係古書の記述内容の分析と今日に現存する技術の記述の両面から整理を図ってきた。</p> <p>2021・2022 年度では、日本庭園の伝承造園技術の全体像のリスト化を実施し、日本庭園技術の原点である『作庭記』の内容について詳細な検討をおこない、その成果は学会研究推進委員会ホームページに掲載した。『作庭記』およびその周辺の時代状況の分析、『山水並野形図』その他の文献や海外の庭園関係古書との比較等については検討が不十分であること、日本庭園の伝承造園技術については、個々をより詳細に把握する必要がある。</p> <p>以上を踏まえ、本研究推進委員会では、上記の残された課題を達成するとともに、日本庭園の価値の普遍性を立証するため、歴史文化・芸術的アプローチ、技術・技能的アプローチ、経済・観光的アプローチといった多面的観点で日本庭園の特質を明らかにすることを目的として活動を推進し、世界的視野に立ちその価値を普及・啓発し、積極的な情報発信をおこなうことを目的とする。</p>
活動計画 及び 想定される 成果 (1年目)	<p>2021・2021 年度の本研究推進委員会では、日本庭園の「こころ」部会と日本庭園の「わざ」部会の編成とし、部会ごとに活動をおこなってきた。この進め方を今後も継続することとする。</p> <p>日本庭園の「こころ」部会については、これまで取り組んできた『作庭記』に関する検討を時代背景も含めて進めるとともに、『山水並野形図』、『築山庭造伝』の前編および後編について、作庭に関する空間の構成方法、表現方法、個々の技術に関する考え方を抽出し、整理する。さらに『園治』に代表される外国の庭園関係古書と『作庭記』等の比較検討をおこなうことにより、世界における日本庭園の様式上の位置づけや独自性、固有性を考察する。</p> <p>日本庭園の「わざ」部会については、伝承造園技術は「つくるわざ」と「そだてる・まもるわざ」に区分でき、①重量物の運搬、②石の吊り上げ・据え付け、加</p>

	<p>工、③庭園施設の材料の製造、④植木の繁殖、⑤土の仕事:地割の設定・地形造成、⑥石の仕事:石組・石積み・飛石・石張り等、⑦水の仕事:池泉・水工、⑧木の仕事:植木の移植・植栽、⑨庭園施設の工作、組み上げ、左官、⑩露地の仕事(以上、つくるわざ)、⑪植木の管理、⑫庭園の管理(以上、そだてる・まもるわざ)、の12種類の体系で説明でき、その中に180以上の個々の技術が含まれる点を整理した。「わざ」部会では個々の技術について解説した「わざ」シートの作成をおこなう。</p> <p>また、日本造園学会でも上記の活動をふまえたミニフォーラムの開催をおこない、会員と研究成果について共有を図るものである。</p>
(2年目)	<p>活動2年目は、日本庭園の「こころ」部会、「わざ」部会の成果を報告書にまとめるとともに、その内容を世界的視野も含めて発信するため、英文に翻訳する。さらに個々の技術の記録動画も添付資料として加え、研究成果品とする。</p>